

IC 日記

開かれた検査室，
開かれた病院を目指して

当院が位置する神石高原町は、広島県の東部の自然豊かな地域ですが、過疎と高齢化に悩む町でもあります。人口は10,900人、高齢化率は42%です。当院は一般病棟と療養病棟を合わせて病床数95床の病院で、2009年に県より町に移管され、社会医療法人社団陽正会寺岡記念病院が指定管理者として運営するいわゆる公設民営方式をとっています。

私は、開院当初よりICT活動に携わっています。微生物検査を外注している検査室では、患者さんと接する機会があまりなく、臨床検査技師としてどう関わればよいのか悩ましい日々が続きました。また町立になった際に半数近くの職員が入れ替わり、医療機関で初めて働く職員も多く、慣れない環境に戸惑いや不安を感じているようでした。

そこで「楽しく、身近に感じられる感染対策」をモットーに、私も新入職者と一緒に初歩から学ぼうと思いました。年に数回行う研修会もできるだけ分かりやすく、実践的な内容となるよう心掛けて行いました。さらに、手洗い強化月間には、手洗いとハンドケアを促す自家製のたすきをかけて朝夕の検体回収時に院内を回することで、目に見えるアピールを行いました。そうした取り組みを続けていくうちに、日常業務ではあまり接点のない職員からも声を掛けていただく機会が増えてきました。その際に、何気ない会話のなかから感染対策に対する認識の違いを感じることがあり、職員全員が共通の認識のもとに取り組むためには円滑なコミュニケーションが必要で、事務的に検査結果を出すだけの臨床検査技師ではダメだと痛感しました。

神石高原町には医療機関が当院以外に3ヵ所ありますが、入院設備を持つのは当院のみであり、町内で医療の中心的役割を果たす責任を担っています。そこで、私たちは地域全体での感染対策の意識向上のため、ノロウイルス流行期には「手を洗おう!」と大きく書いたポスターを背中に貼った職員を複数名外来に配置しました。ただ単に壁にポスターを掲示するよりも患者さんの目を向けることができ、前向きな意見を多くいただきました。さらに、今年度(2011年度)から近隣の施設職員と合同で研修会を計画し、第1回は感染対策の基本である手洗いと個人防護具の着脱法について行いました。その場でお互いをチェックしながら、正しい方法を楽しく再認識できたのではないのでしょうか。今後も継続していきたいと思えます。

まだまだ知識不足で頼りない私ですが、ICTメンバーにサポートしてもらいながら、少しでも地域の感染対策の意識向上に役立てられるよう、日々精進してきます。



～今月の執筆者～

神石高原町立病院 検査室、臨床検査技師
小林みさきさん

ICTメンバー、筆者は後列右から2人目。

